

丹沢クリーンハイク

2008報告集



開会式



山ゆりの会の皆さん



ゴミ集積場所に運ぶ仲間の皆さん

5月25日(日) 雨天中止(一般参加者)

[主催] 神奈川県勤労者山岳連盟 WEB <http://www.k-rouzan.net>

[後援] 神奈川県、丹沢大山クリーンピア21

[協賛] (順不同)

丹沢自然保護協会、丹沢ブナ党、丹沢ドン会、丹沢ゴミ調査会、秦野の自然と環境を守る連絡会、伊勢原の自然と環境を守る連絡会、尾瀬の自然を守る山ゆりの会、相模川キャンピングインシボジウム、グリーntaf(神奈川県自然観察指導員連絡会)、神奈川の自然と環境を守る連絡会(神奈川グリーンネット)、神奈川大学ワンダーフォーゲル部、NPOみろく山の会

「2008丹沢クリーンハイク」

今年のクリーンハイクは天気予報どうりの悪天候で山行コースと一般参加は、中止になりました。

当日が雨の場合は、林道清掃に変更し、参加は各会の判断に任せるという取り決めに従い西山林道と戸川林道の清掃を行ないました。午後には雨もやみましたが、午前中の激しい雨の中、9つの会が参加し燃えないゴミ、燃えるゴミ合わせて約85kgのゴミを、回収しました。あいかわらず林道ならではの大型ゴミでは、車のバンパーがありました。ハイカーのゴミではありませんがモラルの低さや自分さえ良ければという勝手さを感じます。この悪天候を喜んだのは、蛭かもしれません。血を吸われた犠牲者がいましたが、大きな事故もなく、85名が、参加した2008丹沢クリーンハイクは無事終了しました。

雨の中林道清掃に参加された皆様、1月から準備に携わった実行委員、そして県連救助隊、前日の水質調査、前夜祭参加者の皆様方に、改めて御礼申し上げます。

当日の感想文にも書かれていましたようにゴミは以前に比べるとだいぶ減ってきましたが、登山道からはずれた場所にはあいかわらずゴミが、あります。これらのゴミを、どうするのか等まだ課題はいろいろ残っています。今後ともクリーンハイクを中心にした自然保護活動にご理解とご協力をお願い申し上げます。

来年はクリーンハイク日和になることを期待し挨拶に代えさせていただきます。

丹沢クリーンハイク実行委員長 大用ユキ子

実施一覧

コース	担当会	参加者数	燃えるゴミ(kg)	燃えないゴミ(kg)
戸川林道	藤沢山の会	6	0.55	8.85
	雪童山の会	3	9.80	2.30
	横浜こぶしの会	14		27.60
	横浜ハイキングクラブ	2		1.75
西山林道	カモの会	11	2.23	14.45
	川崎勤労者山岳会	6	0.40	0.20
	地平線の会	1		0.30
	こだまの会	1	0.10	
ヤビツ峠	一般参加(当日申込)	1		
くぬぎ山	尾瀬の自然を守る山ゆりの会	7	9.40	6.90
合計		52名	22.48	62.35

参加者総数 = 85名(スタッフ：33名) ゴミ総量 = 84.83kg

5/24水質調査参加者一覧

コース	場所	担当会	参加人数
沢1	水無本谷出合いとツメ	みずなら山の会	1
沢2	源次郎出合いとツメと竜神の泉	アルパインクラブ横浜	2
沢3	勘七の沢出合いとツメ	藤沢山の会	4
水場	大倉高原山の家・塔の水場・後沢乗越の水場	川崎ハイキングクラブ	4
名水	葛葉の泉・春岳沢水場・ゴマ屋敷水場	緑星スキーと山の会	2
			13名

丹沢水質調査結果報告

5月24日(土)に実施しました丹沢水質調査は、雨にも降られず、無事に終わることができました。ご協力いただいた会の皆様、有難うございました。

場所	大腸菌	場所	大腸菌
水無本谷(出合)	陰性	大倉高原山の家	陽性
水無本谷(ツメ)	陰性	塔ノ岳水場	陰性
源次郎沢(出合)	陰性	大山春岳沢水場	陰性
源次郎沢(ツメ)	陰性	ゴマ屋敷水場	陰性
勘七の沢(出合)	陽性	葛葉の泉	陰性
後沢乗越水場	陰性	竜神の泉	陰性

2005年からは「大腸菌群」ではなく、水100mlの中の「大腸菌」の検出をしているため、これが陽性 ということは、し尿汚染があるということの意味をしています。勘七の沢出合いと大倉高原山の水場は今年も陽性でした。本谷や源次郎、湧水や水場は陰性でしたが、天候の条件などによっては検出されることもあるので、沢の水は上流でも、念のため煮沸してから飲むことをお勧めします。また、これからもこの調査を続けて、丹沢の水を見守っていきたいと思います。 来年の水質調査にもご協力を宜しくお願いいたします。

丹沢山域水質調査結果 (過去17年間の推移)

地図	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P
採水場 所 年月日	水無本谷出合	水無本谷ツメ	源次郎沢出合	源次郎沢ツメ	竜神の泉*湧水	竜神の泉*流水	戸沢出合	戸沢ツメ	勘七の沢出合	勘七の沢ツメ	大倉高原山の家	塔ノ岳水場	葛葉の泉	春岳沢水場	ゴマ屋敷水場	後沢乗越水場
08/5/24	○	○	○	○	○	-	-	-	●	-	●	○	○	○	○	○
07/5/26	●	○	●	○	○	-	-	-	●	●	●	○	○	○	○	-
06/5/27	●	○	●	●	○	-	-	-	●	●	●	○	○	○	○	○
05/5/28	●	○	○	-	○	-	-	-	○	○	●	○	●	●	○	●
04/5/29	● 2	● 1	● 9	● 1	○	-	-	-	● 5	○	● 1	● 51	○	○	○	● 1
03/5/24	● 9	● 2	● 11	● 2	○	-	-	-	● 4	○	● 3	○	○	○	● 1	○
02/5/25	●	●	●	○	○	-	●	●	●	●	●	○	○	●	○	●
01/5/26	●	○	○	○	○	-	●	●	●	●	●	○	○	○	○	-
00/5/27	●	●	●	●	○	-	●	●	●	●	●	●	●	-	●	●
99/5/29	●	●	●	●	○	-	●	●	●	●	●	○	-	-	○	●
98/5/30	●	●	●	●	-	-	-	●	●	●	●	●	-	-	-	●
97/5/24	●	●	●	●	-	-	-	●	●	●	●	○	-	-	-	●
96/06	●	●	●	○	-	-	-	○	-	-	●	○	-	-	-	●
95/6/04	●	○	●	○	-	-	●	○	●	●	●	○	-	-	-	●
94/6/05	●	-	●	●	○	●	○	●	●	●	●	○	-	-	○	●
93/6/13	-	-	●	-	○	●	○	-	●	-	-	-	-	-	○	-
92/6/14	-	-	●	-	-	●	●	-	●	-	-	-	-	-	-	-
91/6/09	-	-	-	-	-	-	●	-	○	●	-	-	-	○	-	-

《不検出(陰性) 、検出(陽性) 、調査無し - 》 計量の方法 = 上水試験方法
 計量の対象 = 大腸菌/100ml (2005~2008年)、大腸菌群数/1ml (2003~04年) 大腸菌群/50ml (1991~2002年)
 計量依頼先 = (財)新日本検定協会(1995-2008年)(株)日本環境クリエイト(1991-1994年)

99			2000			2001			2002			2003			2004			2005			2006			2007			2008			総計					
5			5			5			5			5			5			5			5			5											
30			28			27			27			29			30			29			28			27			25								
可燃物	不燃物	計	可燃物	不燃物	計	可燃物	不燃物	計	可燃物	不燃物	計	可燃物	不燃物	計	可燃物	不燃物	計	可燃物	不燃物	計	可燃物	不燃物	計	可燃物	不燃物	計	可燃物	不燃物	計						
202	332	534	28	179	207	90	215	305							0	7.9	7.9	17	23	40	15	16	31	2.3	0.2	2.5	10	41	51	2601	戸沢林道				
19	128	147	74	234	308	33	418	451	60	152	212	9.9	73	83	25	217	243	28	161	189	23	104	127	16	68	84				2288	大倉尾根				
6.8	82	89				4.5	6	11	10	40	50							7.4	13	21	14	19	33	14	80	94				2.7	15	18	888.2	西山林道	
																					0	1	14	15	4.9	31	36				890	塔ノ岳			
																		6.5	26	32	15	38	53	2.4	26	28				236	丹沢山				
41	246	287	12	21	33	22	56	78	57	152	209	84	139	222	25	123	149				0			11	66	77				1463	大山				
												0	29	29	2	6	8				0			2.4	5.1	7.5				44	日向薬師				
												29	339	368							0									368	十六丁目				
92	31	122				54	43	97	29	41	70	18	71	90	39	71	110				0			16	108	124				911	岳ノ台				
10	140	150							51	80	131	13	29	42	16	10	26	5	3	8	3	6	9	2	18	20				2879	二ノ塔				
6	11	17							4	18	22	11	58	68	12	18	30	35	48	83	9	6	15	8.7	47	56				978	三ノ塔				
22	147	169				45	100	145	14	105	145	5.4	50	56	6.2	36	42	9.5	25	34				4.2	56	60				1649	新大日				
																		4	9	13	7	6	13	1	4	5				31	鍋割山				
																		3	6	9	14	9	23	8	16	23	9.4	6.9	16	71	くぬぎ山				
			16	16	31	6.2		6.2	0.1	78	78	0	40	40							0									333	ヤビツ峠				
						4.9	155	204							4.1	36	40	6.3	15	22													544.95	その他	
1513.1			589.5			1405.5			871.5			1107.2			675.7			462.6			379			523.6			84.8			17096	总量				
362			178			254			351			353			348			380			253			400			85				参加者				
新大日、二ノ塔の集中清掃を実施			雨のため規模を縮小、林道を中心に清掃を実施した 新大日、二ノ塔の集中登山を実施(みろく山の会と共催)			雨のため規模を縮小、林道を中心に清掃を実施																								一般者は雨天中止。林道清掃。粗大ゴミは市に報告する。			kg以下は四捨五入		

クリーンハイクの感想文

「お疲れ様」。今年のクリーンハイクは大倉本部の係だったので林道のごみ拾いを終えて戻ってくる皆さんを大倉で出迎えました。お疲れ様と声をかけますが、強い雨の中、ごみの入った袋を手に手に戻ってくる皆さんは笑顔。一仕事したという充実感に満ちた顔でした。「こんなにゴミが」と拾ったごみを見せてもらいます。そうそう、拾い始めると結構楽しいんだよね、あっちにもあるこっちにもあると宝探しみたいで。一年前のクリーンハイク、大山でごみを拾ったときのことを思い出しました。（本当はゴミがないのが理想なのですが...）悪天の中、皆さんの自分たちの山を美しくしようという気持ち、ぜひ来年は晴れてもっと大勢の人たちと共有できることを願います。参加された皆さん、本当にお疲れ様でした。

やま++ 池田



雨の中のクリーンハイクでしたが、林道にはほとんどゴミがないのです。道の脇の斜面に大きな廃棄物が捨てられていました。自動車の人が捨てたようです。



戸川林道

たいした雨でもないのに参加者が激減したのは、同じ山仲間としては残念であった。

雨のクリーンハイクは初めてです。疲れました。

雨の中でしたが貴重な経験ができました。蛭はどこにも居る様ですね。

雨の中のクリーンハイクでしたが、のんびりとゴミを拾っておしゃべりしながら、結構楽しく林道をお掃除(?)できました。

西山林道

車も入りにくいので、ゴミ、粗大ゴミ等少なかったように思いました。ヒルが.....。

残念ながら雨でしたが、少しだけでもゴミを集めることが出来ました。また、来年も頑張ります。

事務方の皆さんお疲れ様でした。雨とヒルで大変でした。

山ヒル多く、ゴミが少なかった。マナーが良くなっていると感じた。

せっかくの清掃登山、雨で残念であった。ゴミの量はかなり少なく、エコ意識の高まりを感じた。

今日は、雨のため、林道での清掃となり、残念でありましたが、林道沿いには車でも入れるところでもあり、ゴミは多く、その意味では成果があったように思いました。ちなみにヒル一匹のおみやげ着きでした。

あいにくの雨でしたが、オタマジャクシも、ヒル、カエルなどを見ました。ゴミはあまり無く、少し粗大ゴミが谷に捨てられていました。(拾えず)

雨で残念でした。



丹沢クリーンハイク

前日の天気予報がかなり強い雨の予想であったので、中止を期待したが敢行するとの事だったので参加した。大型ゴミの写真撮影を頼まれていたので、欠席しづらかったためでもある。

渋沢に着くと、大倉方面のバス停はクリーンハイク参加者を含めガラガラで、バスは立っている人はいなかったほどである。大倉についても役員や見晴らし宿泊組以外はほとんど姿がなく、開会のあいさつ中も全員が戸川公園パークセンターの軒先で収まるほどであった。一人で戸川林道の撮影をするものと思っていたら、悪天候のために清掃範囲が林道に変更となり、藤沢山の会と一緒に行動できてよかった。

前週のピパーク山行時には全く見なかったヒルが結構林道上にみられたり、木の枝から落ちてきたと思われるヒルが首やTシャツに付着していたりしたことから、雨天時にはヒルの活動がより活発になることや、倉見山荘下の水無川の流れが大きく変化することが判明したのはゴミ以上の大きな収穫であった。

最近では山行が雨で中止になるとほっとするが、決して雨が嫌いなわけではなく、土日が忙しすぎて全てが遅れ気味であるためであることを弁解して置きます。

(藤沢山の会 丸山久直)



クリーンハイク感想文

2008年6月26日 横浜こぶしの会(文責：渡沼 勲)

クリーンハイクは、当たり前のこととして登山が出来るための環境を維持するための行動の一つであることが会員間の共通認識として在ったことに加え、本会の自然保護委員が参加を強く促したことが効を奏して多数の参加者を得、悪天候を理由とする欠席者も全く出なかった。

多くの会員が注意深く観察して、ごみの小さな兆を見つけ、缶やペットボトルなど予想を上回る数を拾い集めた。下山後は大倉でビールを飲みながら昼食をとり、その後鶴巻温泉に移動して真摯な反省会を行い今年度のクリーンハイクを終了した。

長期間準備を行って頂いたクリーンハイク実行委員の方々、および万一の場合に備えて待機して頂いた遭難対策部の方々には本当に感謝しております。おかげさまで十分にクリーンハイクを楽しむ事が出来たこと御報告させていただきます。

「横浜ハイキングクラブの丹沢クリーンハイク」

横浜ハイキングクラブは、大山下社～ヤビツ峠のクリーンハイクに25名が参加する予定でしたが、前日の天気予報から、クラブとしてはクリーンハイクを中止としました。ところが、当日伊勢原駅で一般の参加者に中止連絡のため立っていると、我が会の会員が二人来るではありませんか！ 中止の連絡がうまく伝わらなかったのと、雨でも林道を清掃するでしょ！という有志2名です。結局、山行を中止した横浜ハイキングクラブも有志二人のおかげでクリーンハイクに協力できました。

この文章は、中止を決定して、クリーンハイクに参加しなかった山行リーダーが書いています。連絡の不徹底を反省しながら、来年のクリーンハイクが晴天になることを祈ります。来年こそは参加します。

横浜ハイキングクラブ 宮原義明

尾瀬の自然を守る山ゆりの会》

楽しんだ雨のクリーンハイク

またこの季節がやってきました。なんとも朝からの雨ですが、駅には7人も集合しています。山ゆりは雨でも集合し、行動するのが常ですので、誰も迷わず居たのだと思います。そんな訳で雨衣を着けて寄からの出発ですが、暑くて暑くて、汗ですぐに首に下げているバンダナはびしょびしょです。クヌギ山はこのところ毎年行っている山ゆりの定番ルートですが、雨なので途中から林道を通り、大倉へ進みました。

雨に濡れた葉の色のすてきなこと。この季節だから出会えた花々が何とも楽しい時間をくれました。登山道ではゴミもありますが、林道は別で、古いもの新しいものと結構な量のゴミとなりました。初めはこの程度の量は軽い軽いと持つのですが、これが1時間以上も歩くとすると肩に来るのである。でも丹沢の自然は、水、花、鳥、蛇、おたまじゃくし、木の間を歩いてきたさわやかな風など沢山の恵をくれ、とても気持ちの良いものでした。今年のクリーンハイクは、山ゆりの会が一番楽しみ、集めたゴミも一番の量だったのでは？ 皆さんお疲れ様でした。

(和田悦子)



閉会式



水質検査担当コーナー**水無川本谷、水質サンプル採集** 2008年5月24日(土)
みずなら山の会 湊

この週は雨が続き、パーティー行動は中止。引き受けた水質サンプル採集は何とかしたいと現場へでかけた。水量が多ければ引き返すつもりだった。戸沢近くで、源次郎沢へ入る小野さん達と挨拶をかわす。午後は雨予報だったので、午前中に塔へ抜けてしまおうと、時間との勝負になった。9:10 取付きの堰堤上で最初のサンプルを採集すると沢から離れ、書策新道をF5の上までショートカットした。沖ノ源次郎出合で身支度し入渓。さいわい水量は平常とさほど変わっていない。F6、F7と通過F8の下に10:40到着。5年前に来て以来だが、残念なことに左岸のルンゼの崩壊が進んでいる。灌木交じりの土砂が落ちてきており、ルンゼ取付きにはまだ新しい岩礫が堆積していた(今シーズンのもの)。巻きの上部では小さなルンゼを2本トラバースするが、今はフィックスロープが設置されており(5年前はなかったと記憶している)、それに頼らないと通過困難なほどルートが頼りなくなっていた。初心者には危険な巻き道になっているなど感じた。F9を通過し、崩れた石積堰堤の辺でサンプル採集。蛇籠のすぐ上から左の草付きを登る。まもなく踏み跡に合流し、11:45塔ノ岳山頂着。装備を解いているとパラパラと小粒の雨が降りはじめた。

水質調査 5月24日(土)

大倉 二俣 後沢乗越(水採取) 鍋割山 金冷シ
塔ノ岳(水採取) 大倉尾根 大倉高原山の家(水採取)
大倉

天気が危ぶまれましたが、晴れ間も覗いて飛び入り参加を含む4人で調査の道のりをおしゃべりしながら長い林道を歩きました。渡渉しながらヒルがいないように願い、乗越の水を、滅菌手袋をして雑菌が混入しないように慎重に採取する、鍋割山の登山道をジグザグに切りながら途中ポッカのお兄さんに遭遇、草野さんの息子さんかなと勝手に思っちゃいました。鍋割山稜ではトウゴクミツバツツジで彩られ、この辺で雨がパラパラ降って来たがすぐにやんでホットする。塔ノ岳から下ること15分の水場で採取、尊仏山荘で昼食、名物ネコちゃんにも会えておいしいコーヒーも頂きました。大倉尾根を下り見晴茶屋では前夜祭のために各会から集まっており挨拶を交わしながら通り過ぎる、大倉高原山の家ではちょっと怖そうなお主人が外回りの手入れをされていて水を採取させてもらい大倉へ、途中前夜祭に向かう会員さんにも会い、16時無事に水を届け終えました。今年も菌が出ないように願いながら丹沢の美味しい水の恵を感謝しました。

川崎ハイキングクラブ 清藤秀子

丹沢水質調査 (葛葉の泉 大山春岳沢水場 ゴマ屋敷の水場)

今回 緑星スキーと山の会(2名)は 水質担当を初体験いたしました。

ゴマ屋敷の水場は 場所をすぐ思いだすことができましたが 後の2箇所は訪れたことがなく場所探しから始まりました。藤沢山の会や 元水質担当の方にはお世話になりました。

春岳沢の水場は地図にでていません。蓑毛バス停から約10分ほど歩いたところに 神奈川50選の水という大きな標識がありました。見落としたためすぐには水場に到着できませんでした。何人かの登山者に尋ねてようやく探すことができました。後の2箇所は順調に完了し容器の提出ができたことは喜びでした。

結果 大腸菌異常なしで安心しました。

緑星スキーと山の会 北野

春岳沢が、我が街の西を流れる金目川の源流だったことは水質検査に参加して知ったこと。そして清流に住む鮎、稚魚たちが遡上し今年は鮭も平塚大橋付近で確認できたと聞く。丹沢の山々の自然!その中を流れてくる水を大切に見守らなければとおもいます。

藤沢山の会 木村

丹沢自然保護協会「丹沢だより」

(No.454 2008.7) より転載

丹沢大山山域での水質調査「山の水は大丈夫か」で、県労山の水質検査を担当してきた小林朋子さんのインタビュー記事が掲載されました。なお、丹沢大山における水質調査では、2004年から「丹沢大山総合調査」の一環として丹沢大山ボランティアネットワークで年1回30箇所調査を行っています。調査結果の詳細は下記ホームページをご覧ください。

http://e-tanzawa.jp/online/nagare_06taisaku/pdf/H19_volunet_hokoku.pdf

Q: 労山では1991年から東丹沢中心に調査を行っているようですが、そもそも調査のはじめは。

調査結果の公開は1991年からですが、その前から水質の調査は行っていました。水質調査だけというよりも、丹沢の自然環境を調べてみようということから始まったものです。その頃は、登山といえば沢登りが主だったので、どうしても沢の汚れが気になっていたということもありますし、この当時労山に水質に関する専門家が何人がいたことも水質調査を始めた理由の一つだと思います。

その後、NO2調査や土壌の酸性度調査などもやっていたのですが、こちらは結果の解析が難しく、調査もいき詰まってしまうましたが、その点、水質調査は解析がわりあい簡単で、検査を依頼する作業コストも安いこともあり、長く続いているのだと思います。

労山ではクリーンキャンペーンと言っていますが、丹沢のゴミ拾いを1978年から行っています。この作業に併せて採水を行っていることも、続いている原因ではないかと思っています。

Q: 長年調査をされて、丹沢の沢水・水場は変わってきているのでしょうか

おおざっぱに言えば、調査当初から流水には「大腸菌群」が検出され、湧水からは検出されないという傾向はあります。湧水から検出されることがないわけではありませんが、毎年続いていることはありません。これは調査日の前日や当日の天候も関係していると思います。したがって、沢水を飲むときはたとえ上流の水でも煮沸してから飲むことをお奨めしています。

Q：上流の水は危ないのですか？なんとなく上流の水はきれいな気がするのですが。

沢の上流では、だいたい「大腸菌群」が検出されますし、「大腸菌」もときどき検出されます。山を歩いている人は、鹿の糞があちこちに落ちていることはご存じでしょう。大腸菌は人だけでなくいろんな動物や鳥からも出るわけで、それによる汚染ではないかとも考えられます。

獣類の大腸菌がどのようなものを調べた報告を見ていないので何とも言えませんが、野生動物の腸内の寄生虫などの危険性もあり、人の排出した大腸菌よりももしかすると危ないかもしれないという可能性もありますね。

Q：「大腸菌群」から「大腸菌」の解析に代えた理由は

「大腸菌群」は水質汚染の指標の一つなのと分析が簡単なことがあります。でも最近は「大腸菌」の検出方法も開発され、「大腸菌」だけの検出も同じくらいの費用でできるようになったことと、登山者にとっては糞便汚染があるかないかが判ったほうがよい、と考えたので「大腸菌」の分析に切り替えました。もともとが登山者のための飲み水として危険かどうかを調べてみようということから始まったものだし、「大腸菌」だけの検出が手軽にできるようになったのだから、チャレンジする価値は大いにあると判断しました。

Q：調査をなさってきてその成果がみえるようなことがありましたか。

労山の調査結果はHPで公開しているので、これを見ていたかた（山小屋・行政など）は意外と多いように思います。

以前、ある水場でかなりの「大腸菌群」が検出されたことがありましたが、翌年は全く検出されませんでした。それは、水場の周辺を整備し直してあったことから判りました。他の水場でも同じような例を見ている。解析結果を見たうえで水場を整備し直しているような例をみると、効果があったと言えるのではないのでしょうか。それに、一般の登山者にも関心を持ってもらえるのではないかと考えています。

Q：これからの調査について。

水質調査というと「大腸菌群」の調査で、あまり「大腸菌」だけの調査はされていないようです。

これまでの調査が「大腸菌群」だとしても、水場（特に山域）の汚染度をみるなら「大腸菌」の調査をお奨めします。「大腸菌」の検出は以前よりも分析の精度があがってきているし、コストも安くなっています。これまでの調査結果の累積も重要ではありますが、そのことにより糞便汚染の証拠を見逃してしまうことは残念なことだと思っています。

お聞きした方：小林朋子（こばやしともこ / 職業能力開発総合大学校准教授）

先の表に挙げた調査結果からも、丹沢の水域の汚染のある程度の傾向は見ることはできると思います。今後もし引き続き調査を続けていき、長いスパンでのデータをとっていくこと、丹沢の水の状況を広く報せていくことが大切であると考えています。（まとめ・文責：奥津昌哉）

救助隊・クリーンハイク参加報告

救助隊 海輪

激しい降雨の中の清掃山行、ご苦労様でした。

今年のクリーンハイクは、あいにくの雨の為に登山道の清掃山行は中止であることを前夜に確認し、救助隊の無線体制も縮小しました。

具体的には、ヤビツ本部 岳の台に4名、戸川林道に2名、西山林道に2名、大倉高原に1名、大倉本部2名の体制で臨みました。

予想以上の降雨に戸川林道は新茅荘、西山林道も一の沢手前での中止となりましたが、全区域を連絡可能とするフォロー体制を構築することができました。

クリーンハイクの通信体制を作ることは、クリーンハイクの安全に寄与すると共に、救助隊として無線通信の範囲を知ることにより実際の救助活動に反映させることもあります。今まで戸沢から大倉への直接通信は困難でしたが、大倉本部を見通しのきくロータリー下部の東屋へ設置したことからか？直接の交信が可能でした。また、今まで通信のネックとなっていた西山林道も大倉高原に中継地点を設けることで（一の沢までは）、明瞭な通信が可能であることを確認しました。今後の訓練で検証して、実際の出勤時に生かしていきたいと思います。

救助隊からの意見・要望としては、クリーンハイク自体が中止となった場合は林道の清掃も中止としてはどうか、と云うものです。

登山道清掃が中止となって林道清掃に急遽変更して参加するパーティーが多く、参加パーティーと参加人数の把握がおろそかになりがちな事。戸川林道でも西山林道でも大雨の時は土砂崩れが起きることがあり、参加者と救助隊員の安全が脅かされたり、車両の回収困難といった事態の可能性があることからです。

次回クリーンハイクの成功に向け、救助隊としても努力していきたいと思っています。



丹沢クリーンハイク大型ごみ写真

全て戸川林道脇、 以外は谷側

2008年5月25日

藤沢山の会・丸山撮影



通行規制看板



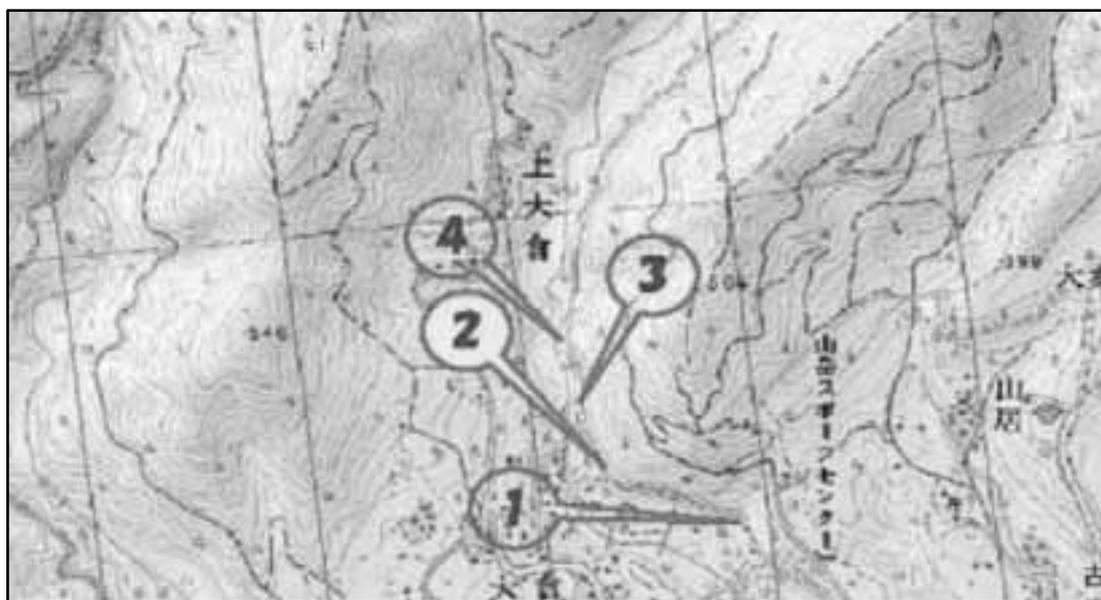
大型マット



リヤスポイラー（鳥越車で回収）



ポリ袋入りのセメント（袋のみ除去）



西山林道の途中で大きなゴミを見つけました。話しに聴くところによりますと、林道の大きなゴミは、場所を秦野市にお伝えすれば回収してもらえるということを知ることがあります。

鳥越@小田原ナーゲル山の会

* クリーンハイク時に調査した林道わきの大型ゴミの報告を秦野市に提出。回収したかは不明。回収は定期的(半年に一度)にまとめて行っているようです。

クリーンハイク実行委員会



会主催のクリーンハイクのお知らせ

他の会、一般参加OKです。

- | | | |
|------------|-------------|-----|
| 小田原ナーゲルの会 | 10 / 12 (日) | 金時山 |
| 藤沢山の会 | 10 / 26 (日) | 大山 |
| 川崎ハイキングクラブ | 11 / 2 (日) | 仏果山 |

2008クリーンハイク参加者 5.25

実行委員

大用 高橋 磯部 三上 萩原 井上(柴笛) 渡辺(藤沢) 金森 森谷(ナーゲル) 田辺 望月(川崎労山) 栗城 池田(やま++) 大日 方 宮原(横浜HC)・石田

県連委員

渡辺 後藤 鳥越 小竹 村松

救助隊

海輪 田村 岡崎 山本 岩瀬 椎谷 宮澤 熊谷 湊 樺島

西山林道

(地平線)石田
(こだま)石川

(川崎労山)佐藤・糸山・繁内・森・長崎・吉村

(カモの会)河合・武田・橋本・太田・鈴木・藤田・野上・竹井・荒嶋・鈴木・柳

戸川林道

(藤沢山の会)太田・木村・池田・丸山・植田・角田・

(横浜こぶしの会)渡沼・上野・間所・佐藤・政田・渡辺・小町・小町・南雲・石川・池原・

渡辺・加藤・加藤

(横浜HC)羽澤・十津川

(雪童山の会)深江・横田・臼田

一般者

鏡畑

小田原ナーゲル山の会 八つ星、神野

山ゆりの会 7名

(敬称略)

労山自然保護憲章

登山は、自然と関わりが深い「スポーツ・レクリエーション」であり、豊かで多様な自然の中で発展してきました。山岳自然は人為に対して極めてぜい弱であり、一度破壊されると容易に復元しない特性があります。ところが近年、山岳自然の荒廃がめだち、登山文化がそこなわれる状況が生まれています。

日本勤労者山岳連盟（労山）は創立（1960年）以来、登山者の使命として自然保護問題に正面から取り組み、各地で自然を破壊し登山を阻害する開発に反対してきました。また、「山からゴミを一掃しよう」と取り組んだクリーンハイク運動は、登山者のモラルを高め、世論を動かし、山のゴミは著しく少なくなってきました。

かつて山岳自然保護の主な課題は乱開発から自然を守ることにありました。しかし、今やオーバーユース等の利用者自身による問題や、地球温暖化、酸性雨・霧など地域・国境を越えた地球規模の環境問題も重視されるようになり、自然を汚染・破壊する原因は多様・複雑になってきました。

そこで私たちは、登山文化の継承発展と、山岳自然と登山者との新しい共存をめざし、ここに「労山自然保護憲章」を定めます。

- 1 登山活動を通して、自然を見る目をやしない、自然の変化をとらえ、山と地球規模の環境保全に寄与します。
- 2 山を汚さず、山をいためず、傷つけた山を復元す

る努力は登山者の務めです。

環境への影響を最小限にするため、「自然を傷つけない登山技術」を求め普及していきます。

- 3 多数が同時に行動する集団登山は自然への負担が大きいので、自然を傷つけないように創意工夫して取り組みます。
- 4 山岳での開発動向に関心を持ち、利便性にかたよることなく、事実にもとづいた判断で自然がそこなわれないよう努めます。
- 5 クリーンハイク運動に参加し、登山者のモラルを高め、山からゴミを一掃します。そこでつちかった力で、さらに多面的な自然保護活動を広げていきます。
- 6 山を汚染しない排泄物の処理方法や自然環境に配慮した山小屋やトイレを考え、山域にふさわしい対策の実現をめざします。
- 7 自分の好きな山「心のふるさとの山」を持ち、山の自然を学び、地域との交流や山麓の文化に触れるなど、自らの登山スタイルをめざします。
- 8 登山道、山小屋など施設整備は、自然への負担を最小限にとどめることが大切です。それらの設置・運営にあたっては、国や自治体、住民や所有者、登山者の合意形成を求めています。
- 9 住民や利用者の声を無視した「入山規制」、「入山料」ではなく、その声を生かした自然の保全管理を進めるよう国や自治体、所有者に求めています。

2006年2月19日 日本勤労者山岳連盟

第14回全国登山者自然保護集会

主催 日本勤労者山岳連盟

主管 神奈川県勤労者山岳連盟

メインテーマ

「地球温暖化が山岳自然に及ぼす影響」と「自然を傷つけない登山についての労山のスタンダード《基準》」について考える

日本勤労者山岳連盟（労山）は、創立（1960年）以来、登山者の使命として、山岳自然と登山者の共存をめざし、自然保護問題に正面から取り組み、各地で自然を破壊し登山を阻害する開発に反対してきました。また、35年前から「山からゴミを一掃しよう」と、全国の仲間が取り組んできたクリーンハイク運動は、登山者のモラルを高めるとともに、世論をも動かすなかで、登山道のゴミは著しく少なくなってきました。

しかし、オーバーユースによる登山道の踏み荒らしや排泄物の処理をどうするのか、問題は山積みされています。これからは、山を汚さない登山の方法、山を傷めない登山の方法、傷つけた山をどのようにして復元するのかなど、山岳自然を傷つせず共存をめざす登山技術を高め普及していくことが必要です。

今日、地球温暖化がすすむなかで、日本の山岳自然・生態系にも大きな異変が生じている状況にあります。同時に、これからは、地球温暖化を抑制するために登山の分野からも低炭素社会をめざすことが求められています。

日本勤労者山岳連盟は、4年間の全国討議を経て、2006年2月に地球温暖化対策を明示した「労山自然保護憲章」を全国総会で制定してから3年目を向かえます。

また、日本勤労者山岳連盟は、昨年10月長野県松本市で開かれたアジア山岳連盟の総会で理事国として日本の代表になりました。ヒマラヤで起きている温暖化による山岳氷河湖の決壊の危機などの世界的な山岳環境問題にも貢献したいと思います。朝日新聞社からは、このような主旨の国際シンポジウムが日本で開催されるなら後援したいというご返事も頂いております。

私たち登山者が、このような状況について、かけがえない山岳自然と共存しながら、楽しい登山をすすめるために、自然豊かな神奈川県秦野市の表丹沢山麓で第14回全国登山者自然保護集会を開催して広くて意見を交流したいと思います。

全国の労山の仲間を始め、登山者、登山団体、自然保護団体、研究者や関心のある市民など多数の方々に参加していただけることを心から期待しております。

日時 2008年11月15日（土）～11月16日（日）

11月15日（土）午後1時開会～11月16日（日）午前12時閉会

会場 秦野市表丹沢野外活動センター

〒257-1302 秦野市菩提2046番地の5
0463-75-0725 FAX0463-75-0725

目次	p 1 表紙	載)
	p 2 実行委員長あいさつ 実施一覧 / 水質調査参加一覧	p 10 救助隊参加感想文
	p 3 2008 丹沢水質調査結果報告	p 11 大型ゴミ・地図と写真
	p 4 これまでのゴミ集計一覧	p 12 会主催のクリーンハイク日程 / 参加者一覧
	p 6 参加者の感想文とスナップ写真	p 13 丹山自然保護憲章 / 第 14 回全国登山自然保護集会
	p 9 水質調査参加者感想文 / 小林朋子インタビュー記事(転	p 14 目次 / 加盟団体一覧
		奥付

	団体名	ホームページ・問い合わせ先
1	川崎勤労者山岳会	http://kawasakirousan.hp.infoseek.co.jp/ 問合せ = ホームページ参照
2	川崎ハイキングクラブ	http://homepage2.nifty.com/kawasaki_hc/ 問合せ = ホームページ参照
3	川崎柴笛クラブ	http://www.shibabue.com/page/page-1.htm 問合せ = ホームページ参照
4	アルパインクラブ横浜	http://acy.jpn.org/ 問合せ = ホームページ参照
5	横浜ハイキングクラブ	http://yokohamahc.web.infoseek.co.jp/index.html 問合せ = ホームページ参照
6	横浜こぶしの会	http://kobu-shi.sakura.ne.jp/ 問合せ = ホームページ参照
7	藤沢山の会	http://outdoor.geocities.jp/akio_saito21/ 問合せ = ホームページ参照
8	小田原ナーゲル山の会	http://nagel.jp/ 問合せ = ホームページ参照
9	相模アルパインクラブ	http://sagamiac.sakura.ne.jp/ 問合せ = ホームページ参照
10	こだまの会	問合せ = 県連ホームページ参照
11	みずなら山の会	http://makiyamaenchi.web.infoseek.co.jp/ 問合せ = ホームページ参照
12	久良岐ハイキングクラブ	http://www5f.biglobe.ne.jp/%7Em3s/ 問合せ = ホームページ参照
13	緑星スキー山の会	問合せ = 県連ホームページ参照
14	さがみ山友会	http://www.geocities.jp/sagami_sanyukai/ 問合せ = ホームページ参照
15	こまくさHC	問合せ = 県連ホームページ参照
16	横浜山楽会	問合せ = 県連ホームページ参照
17	カモの会	http://www.kamonokai.com/ 問合せ = ホームページ参照
18	白嶺岳和会	問合せ = 県連ホームページ参照
19	雪童山の会	http://www5e.biglobe.ne.jp/~yama/ 問合せ = ホームページ参照
20	地平線の会	http://www.geocities.jp/tiheisen2004/ 問合せ = ホームページ参照
21	やま++	http://yamaplpla.hustle.ne.jp/xoops/ 問合せ = ホームページ参照
22	山ブキの会	自然を愛し仲間と楽しむ。入会条件無し。 問合せ = 県連事務局へ
23	山岳素行童人メーグリ家	フリー、沢、アルパインクライミング等 問合せ = 県連事務局へ



丹沢クリーンハイク 2008 報告集

2008年7月28日発行 500部

神奈川県勤労者山岳連盟自然保護委員会 クリーンハイク実行委員長 大用ユキ子

〒221-0822 横浜市神奈川区西神奈川1-18-2 永田ビル3F TEL&FAX 045-434-2726